

2023 年度 授業評価アンケート

1. 授業評価アンケート(学部)

1-1. アンケート概要

学部における授業改善に向けて2004年度から学部生を対象とした個別の授業に対する授業評価アンケートを実施している。調査概要と実施状況は以下のとおりである。

【概要】

(1) 調査目的

「武蔵大学ファカルティ・ディベロップメント委員会規程(平成21年4月16日制定)」に基づき、学部の教育活動の組織的改善に資する取組みとして、学部授業評価アンケートを実施。

(2) 調査対象

武蔵大学に在籍している学部生(ただし、休学、留学中の学生を除く)。

(3) 調査方式

学内ポータルサイト(3S)より回答。

(4) 設問項目

次ページを参照

(5) 実施期間

[Spring1科目] 2023年5月22日(月) ～ 2023年6月2日(金)

[春学期・Spring2科目] 2023年7月3日(月) ～ 2023年7月21日(金)

[秋学期・Autumn1・Autumn2科目] 2023年12月4日(月) ～ 2023年12月22日(金)

(注)春学期の数字には Spring1・Spring2 科目及び春学期科目が含まれている

秋学期の数字には Autumn1・Autumn2 科目及び秋学期科目が含まれている。

- 本アンケートは、授業を改善し、さらに充実させることや教育改善を目的に実施するものです。
- 回答内容が成績評価に影響を与えることは決してありません。
- 担当教員は、集計された結果のみを見ますので、学生一人ひとりの回答を見ることはありません。
- 授業をより良いものにするという意識のもとに、素直かつ責任をもって回答してください。
- 自由記述欄の回答が、担当教員に対する人権侵害等にあたる内容を含むと判断される場合は、事務局により個人を照会の上、しかるべき対応をとります。
- プライバシー保護のため、自由記述の記入内容に関しては授業担当者へ直接伝えることはせず、大学として今後の授業改善の参考とします。
- 設問の一部はベストティーチャー賞の選定に用います。

※必須設問をすべて回答しないと送信できませんが、回答中の一時保存は可能です。また、回答済みの授業評価でも、実施期間中であれば何度でも修正することができます。

【 I 】この授業のあなたの取り組みについて、以下の項目にどの程度当てはまりますか？

1. この授業はシラバスに沿って行われていましたか？（必須）

- 全くそう思わない あまりそう思わない どちらともいえない まあそう思う 強くそう思う

2. あなたはこの授業に関して、予習・復習など授業外での取り組みを1週間でどのくらい行ないましたか？（必須）

- 全くしなかった 1 時間未満 4 時間以上 2 時間未満～1 時間以上
 3 時間未満～2 時間以上 4 時間未満～3 時間以上

【 II 】この授業の内容について、以下の項目にどの程度当てはまりますか？

1. 総合的にみて、この授業は満足できた（必須）

- 全くそう思わない あまりそう思わない どちらともいえない まあそう思う 強くそう思う

2. 授業内容を理解できた（必須）

- 全くそう思わない あまりそう思わない どちらともいえない まあそう思う 強くそう思う

3. 授業内容に興味を持てた（必須）

- 全くそう思わない あまりそう思わない どちらともいえない まあそう思う 強くそう思う

4. 授業の進行速度は適切だった（必須）

- 全くそう思わない あまりそう思わない どちらともいえない まあそう思う 強くそう思う

5. 教員は質問や問い合わせに適切に対応してくれた（必須）

- 質問や問い合わせをしなかった 全くそう思わない あまりそう思わない
 どちらともいえない まあそう思う 強くそう思う

6. この授業を特に優れた授業として他の学生に勧めたい（必須）

- 全くそう思わない あまりそう思わない どちらともいえない まあそう思う 強くそう思う

7. 「自ら調べ自ら考える」ことが楽しくなった (必須)

全くそう思わない あまりそう思わない どちらともいえない まあそう思う 強くそう思う

【Ⅲ】あなたはこの授業を受けることで、以下の知識・能力・態度が身につきましたか？

1. 深い教養・幅広い知識 (必須)

身についた 身につかなかった

2. 専門的知識 (必須)

身についた 身につかなかった

3. 主体的な学習態度 (必須)

身についた 身につかなかった

4. 批判的な学習態度 (必須)

身についた 身につかなかった

5. 共感力 (必須)

身についた 身につかなかった

6. 対話力 (必須)

身についた 身につかなかった

7. グローバルな思考力 (必須)

身についた 身につかなかった

8. 外国語運用能力 (必須)

身についた 身につかなかった

9. 学びを活用する実践力 (必須)

身についた 身につかなかった

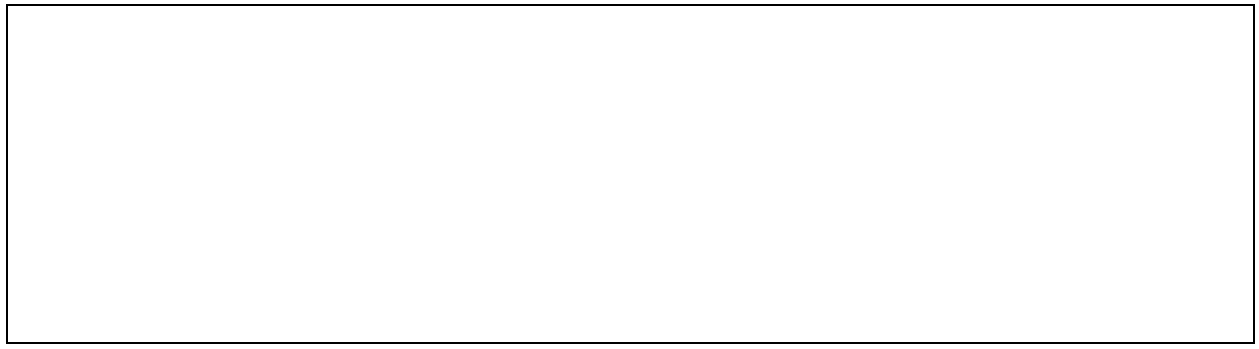
【Ⅳ】自由記述

この授業に対する、良かった点・改善を要する点、何か意見等がありましたらお書きください。

※ただし、誹謗中傷は避けて回答してください。

※回答が、担当教員に対する人権侵害等にあたる内容を含むと判断される場合は、個人を照会の上、し
かるべき対応をとります。

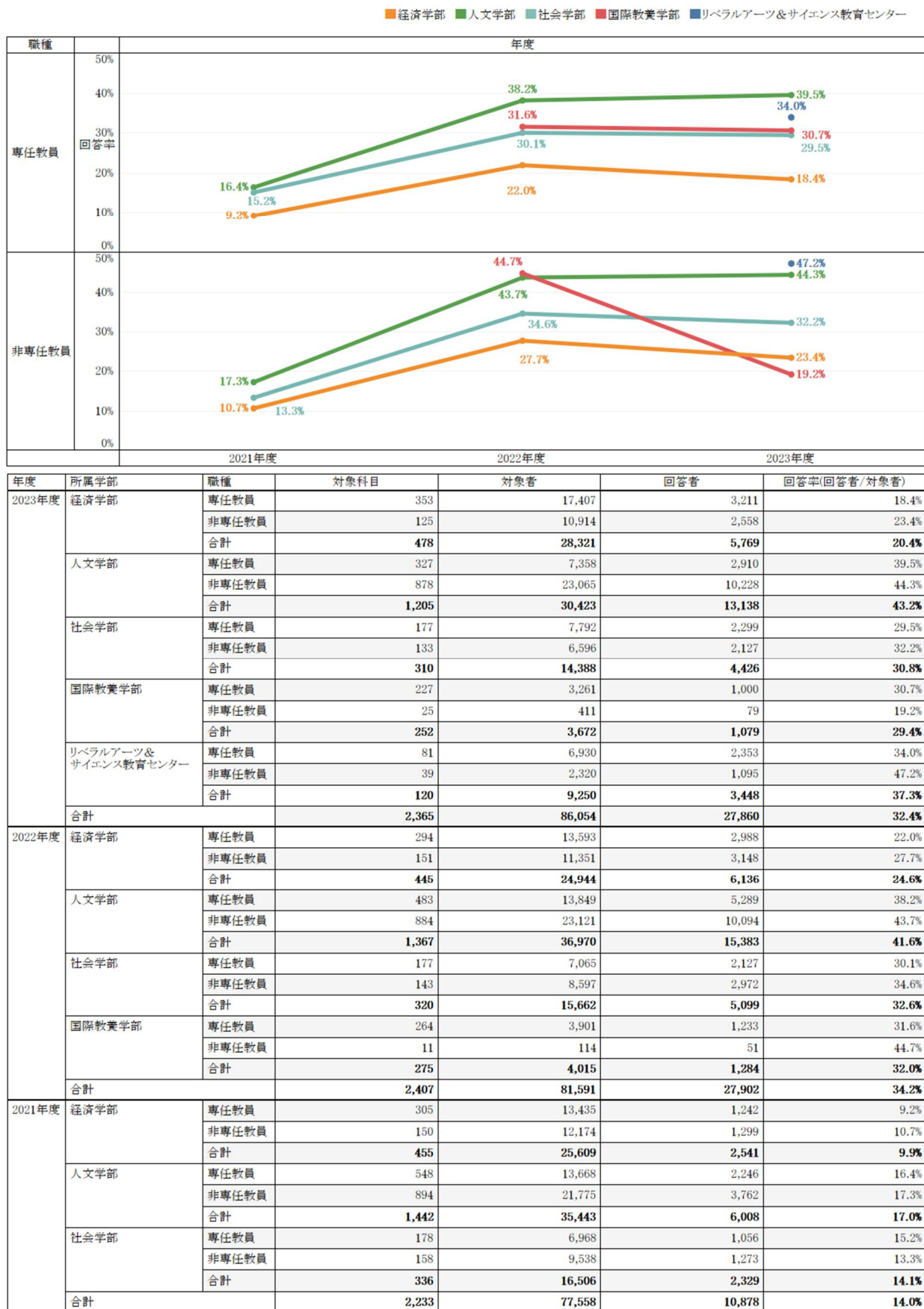
※プライバシー保護のため、自由記述の記入内容に関しては授業担当者へ 直接伝えることはせず、大
学として今後の授業改善の参考とします。



以上でアンケートは終わりです。ご協力ありがとうございました。

1-2. アンケート回答率

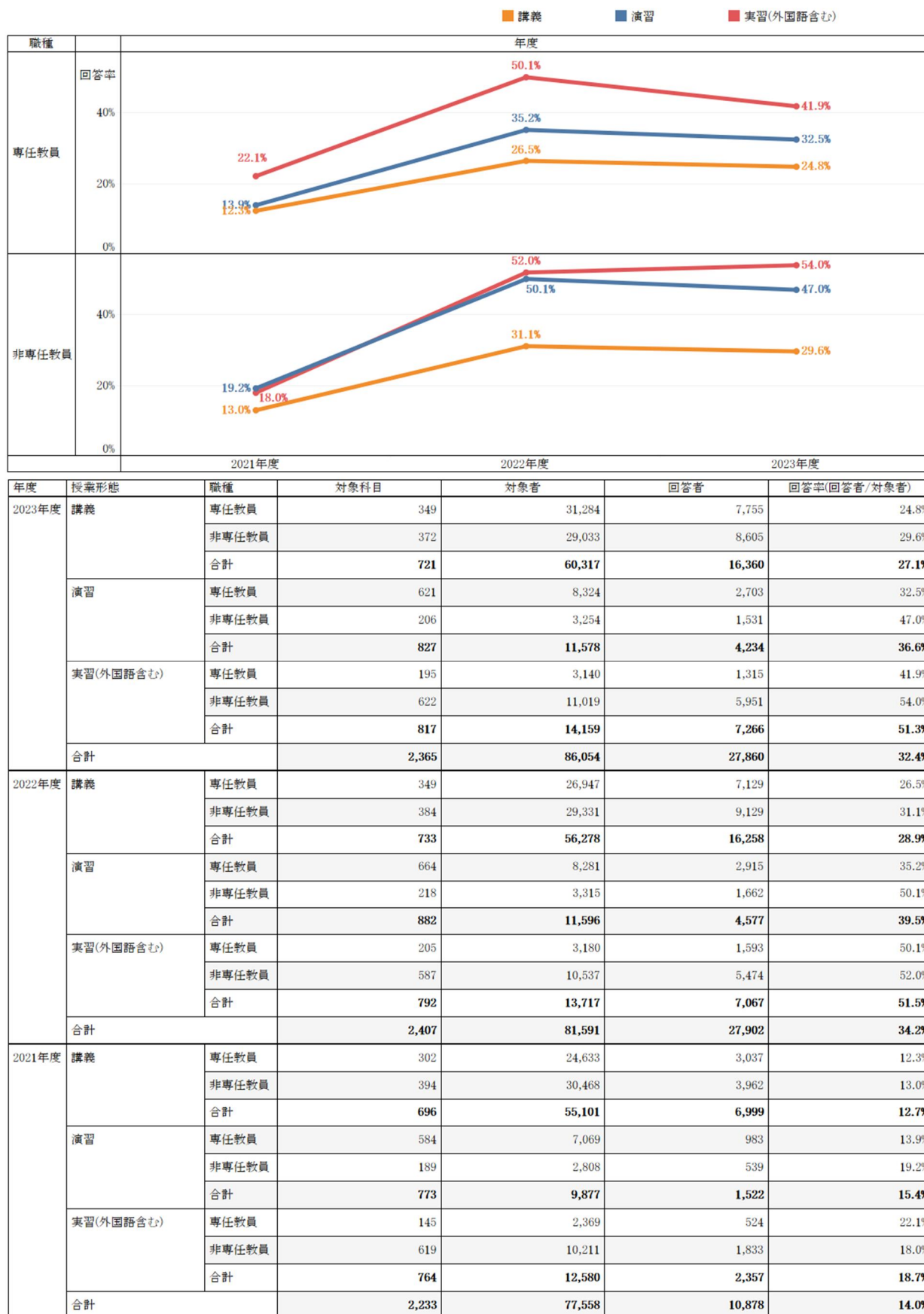
以下は 2023 年度に実施した授業評価アンケートの教員所属・職種別の回答率である。



2023 年度の回答率を教員所属別にみると人文学部が最も高く 43.2%となっている。

また、教員所属・職種別に見ると、専任教員においては人文学部が最も高く 39.5%であり、非専任教員においては、リベラルアーツ&サイエンス教育センターが最も高く 47.2%となっている。

以下は授業評価アンケートの授業形態・職種別の回答率である。



2023年度の回答率を授業形態別にみると実習(外国語含む)が最も高く50%を超えている。

また、教員所属・職種別に見ても、専任教員及び非専任教員ともに実習(外国語含む)が最も高く、それぞれ専任教員 41.9%、非専任教員 54.0%となっている。

1-3. アンケート集計結果及び考察

ここでは 2023 年度に実施した授業評価アンケートに基づき、設問ごとに授業評価アンケートの集計結果及び考察を示す。分類方法は以下の通り。

- ・【総合科目】講義／演習
- ・【外国語科目】実習
- ・【経済学部科目】講義／演習
- ・【人文学部科目】講義／演習／実習
- ・【社会学部科目】講義／演習
- ・【国際教養学部科目】講義／演習／実習
- ・【国際関連科目】講義／演習／実習
- ・【教職・学芸員科目】講義／演習／実習

※経済学部・社会学部の実習は回答がなかったため、分類をしていない。

【I. 授業への取組状況】

I-1. この授業はシラバスに沿って行われていましたか？

「強くそう思う」「まあそう思う」と回答した割合が全ての科目分類・授業形態において、85%を超えておりシラバスに沿った授業が展開されているといえる。

I-2. あなたはこの授業に関して、予習・復習など授業外での取り組みを1週間でのどのくらい行ないましたか？

全体として「1時間未満」と回答した割合が高い結果となった。授業形態別にみると、講義科目よりも演習科目及び実習科目の方が授業外学修時間が長い傾向がある。

【II. 授業評価】

II-1. 総合的にみて、この授業は満足できたか

「強くそう思う」「まあそう思う」と回答した割合が、多くの科目分類・授業形態において 80%を超える結果となった。特に国際教養学部の演習科目では「強くそう思う」の割合が 60%を超えており非常に高い数値となっている。国際関連科目及び教職・学芸員科目の演習科目も高い数値となっているが、回答者数が少ないため判断が難しい。また、全体として講義科目よりも演習科目及び実習科目の方が満足度が高い傾向がある。

II-2. 授業内容を理解できた

「強くそう思う」「まあそう思う」と回答した割合が、全ての科目分類・授業形態において 70%を超える結果となった。ただし、経済学部及び国際教養学部の講義科目では「強くそう思う」「まあそう思う」の割合が他の科目分類・授業形態と比較するとやや低い傾向があるため、注意が必要である。また、「総合的にみて、この授業は満足できた」(II-1)と同様に、全体として講義科目よりも演習科目及び実習科目の方が理解度が高い傾向がある。

II-3. 授業内容に興味を持てた

全体として「強くそう思う」「まあそう思う」と回答した割合が高く、約 75%前後という結果となった。特に、国際教養学部科目の演習科目において「強くそう思う」と回答した割合が高く、60%を超える。国際関連科目の演習科目に関しても非常に高い値となっているが回答数が非常に少なく判断が難しい。

また、全体として講義科目よりも演習科目及び実習科目の方が「強くそう思う」「まあそう思う」と回答した割合が高い傾向がある。

II-4. 授業の進行速度は適切だった

全体として「強くそう思う」「まあそう思う」と回答した割合が高い結果となった。特に国際教養学部の実習科目に関しては「強くそう思う」の割合が65%を超えており、非常に高い値となっている。一方、国際教養学部の講義科目に関しては、その他の科目分類・授業形態と比較すると「強くそう思う」「まあそう思う」の割合が低い傾向があるため注意が必要かもしれない。

II-5. 教員は質問や問い合わせに適切に対応してくれた

全体として「質問や問い合わせをしなかった」と回答した割合が高い結果となった。一方で、国際教養学部の講義科目はその他の講義科目と比較し、「質問や問い合わせをしなかった」と回答した割合が低い傾向がみられ、教員に対し質問や問い合わせをする学生が多かったことがわかる。

また、授業形態別で見ると、講義科目よりも演習科目の方が「強くそう思う」「まあそう思う」と回答した割合が高い傾向が見られる。演習科目の多くは少人数で実施されるため、教員に対する距離が近いことが理由に挙げられるかもしれない。

II-6. この授業を特に優れた授業として他の学生に勧めたい

全体として「強くそう思う」「まあそう思う」と回答した割合が高い結果となった。科目分類別で見ると、国際教養学部の実習科目において、「強くそう思う」「まあそう思う」と回答した割合が他と比べて高くなっており、約90%となっている。また、全体として講義科目よりも演習科目の方が「強くそう思う」「まあそう思う」と回答した割合が高い傾向が見られる。

II-7. 「自ら調べ自ら考える」ことが楽しくなった

全体として「強くそう思う」「まあそう思う」と回答した割合が高い結果となった。科目分類別で見ると、人文学部及び国際教養学部の演習科目において、「強くそう思う」「まあそう思う」と回答した割合が他と比べて高くなっており、85%を超えている。また、全体として講義科目よりも演習科目の方が「強くそう思う」「まあそう思う」と回答した割合が高い傾向が見られる。演習科目は講義科目よりも授業外学修時間が長いことが理由に挙げられるかもしれない。

【Ⅲ. 身についた知識・能力・態度】

III-1. 深い教養・幅広い知識

全体として「身についた」と回答した割合が高く、一部の科目分類を除き80%を超える結果となった。一方で外国語科目においては、「身につかなかった」と回答した割合が15%を超えている。外国語科目という科目の性質が影響しているかもしれない。

III-2. 専門的知識

科目分類別にみると、演習科目の方が、講義科目及び実習科目より「身についた」と回答した割合が高い傾向が見られる。一方で国際教養学部のみわずかだが講義科目の方が演習よりも「身についた」と回答した割合が高い。

III-3. 主体的な学習態度

一部の科目分類を除き、全体として演習科目の方が講義科目及び実習科目よりも「身についた」と回答した割合が高い傾向が見られる。演習科目はグループワーク等が取り入れられるという科目の性質が影響しているかもしれない。また、国際教養学部の演習科目については「身についた」と回答した割合が96%となっており非常に高い値である。

Ⅲ-4. 批判的な学習態度

全体として演習科目の方が講義科目・実習科目よりも「身についた」と回答した割合が高い傾向が見られる。また、国際教養学部の演習科目において、「身についた」と回答した割合が最も高く 85%を超えている。

Ⅲ-5. 共感力

経済学部の講義科目において、「身についた」と回答する割合が 50%を下回っている。講義科目の性質によるところがあるかもしれないが、今後も注視していく必要があるかもしれない。

一方で、社会学部の演習科目は「身についた」と回答する割合が 87%となっており非常に高い数値となっている。また、演習科目については、どの科目分類においても 75%以上が「身についた」と回答している。

Ⅲ-6. 対話力

全体として、「身についた」と回答する割合が演習科目と講義科目で大きく差がある結果となった。経済学部及び人文学部の講義科目では「身についた」と回答する割合が 30%を下回っている。講義科目は演習科目の様にグループワークを導入している科目が少なく、対話をする機会が少ないことが影響しているかもしれない。

Ⅲ-7. グローバルな思考力

全体として、国際教養学部の科目において、「身についた」と回答する割合が最も高く、次いで人文学部が高くなっている。これは、各学部における教育内容が影響していると考えられる。

Ⅲ-8. 外国語運用能力

全体として、国際教養学部の科目において、「身についた」と回答する割合が非常に高くなっている。これは、国際教養学部の多くの科目が英語で行われることに影響を受けていると考えられる。

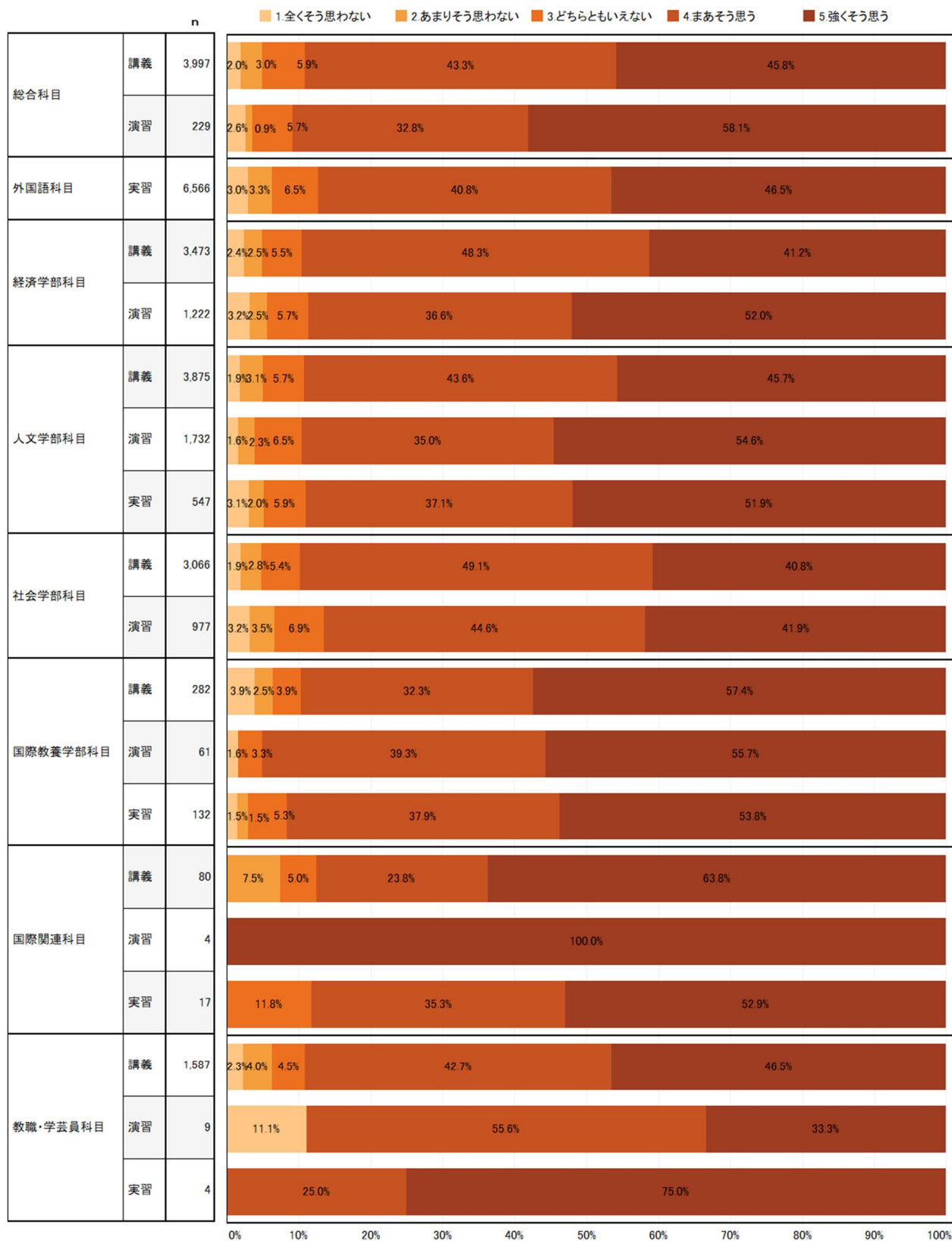
一方で、社会学部に関しては、講義科目及び演習科目ともに「身についた」と回答する割合が 15%を下回っている。

Ⅲ-9. 学びを活用する実践力

全体として演習科目の方が講義科目・実習科目よりも「身についた」と回答した割合が高い傾向が見られる。特に国際教養学部の演習科目において、「身についた」と回答する割合が 98%となっており非常に高い数値となっている。

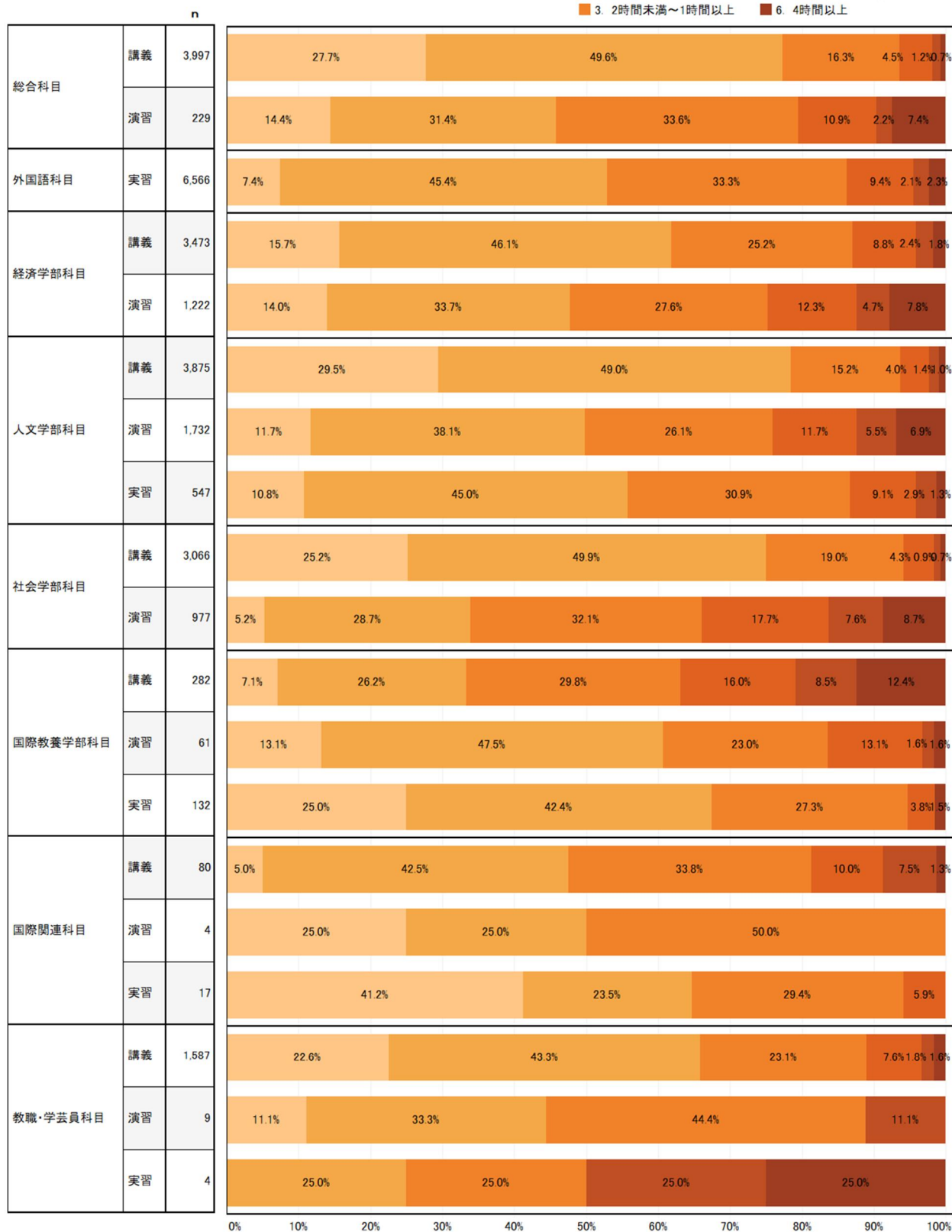
【I】この授業のあなたの取り組みについて、以下の項目にどの程度当てはまりますか？

設問 I-1. この授業はシラバスに沿って行われていましたか？



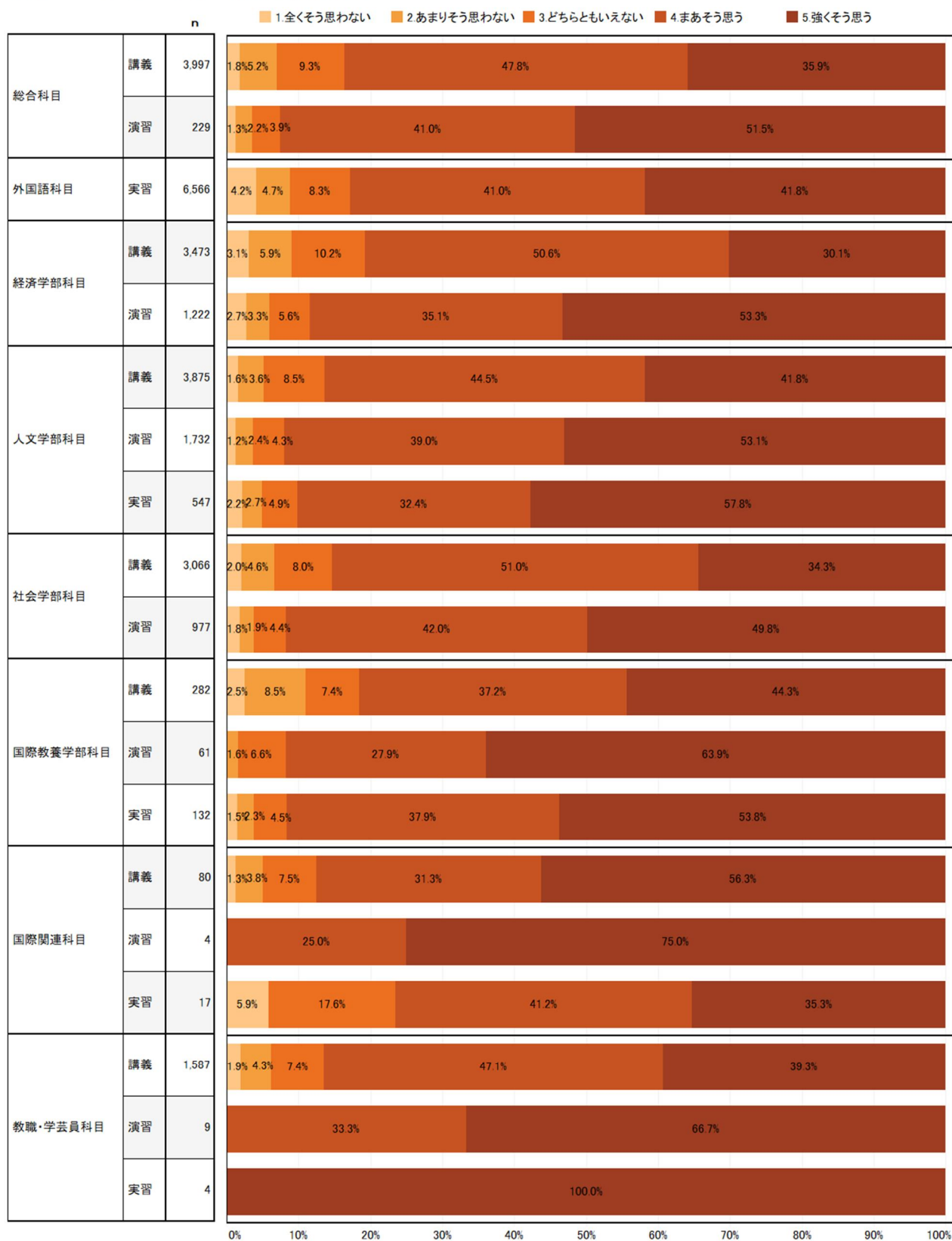
設問 I - 2. あなたはこの授業に関して、予習・復習など授業外での取り組みを1週間でどのくらい行ないましたか？

- 1. 全くしなかった
- 2. 1時間未満
- 3. 2時間未満～1時間以上
- 4. 3時間未満～2時間以上
- 5. 4時間未満～3時間以上
- 6. 4時間以上

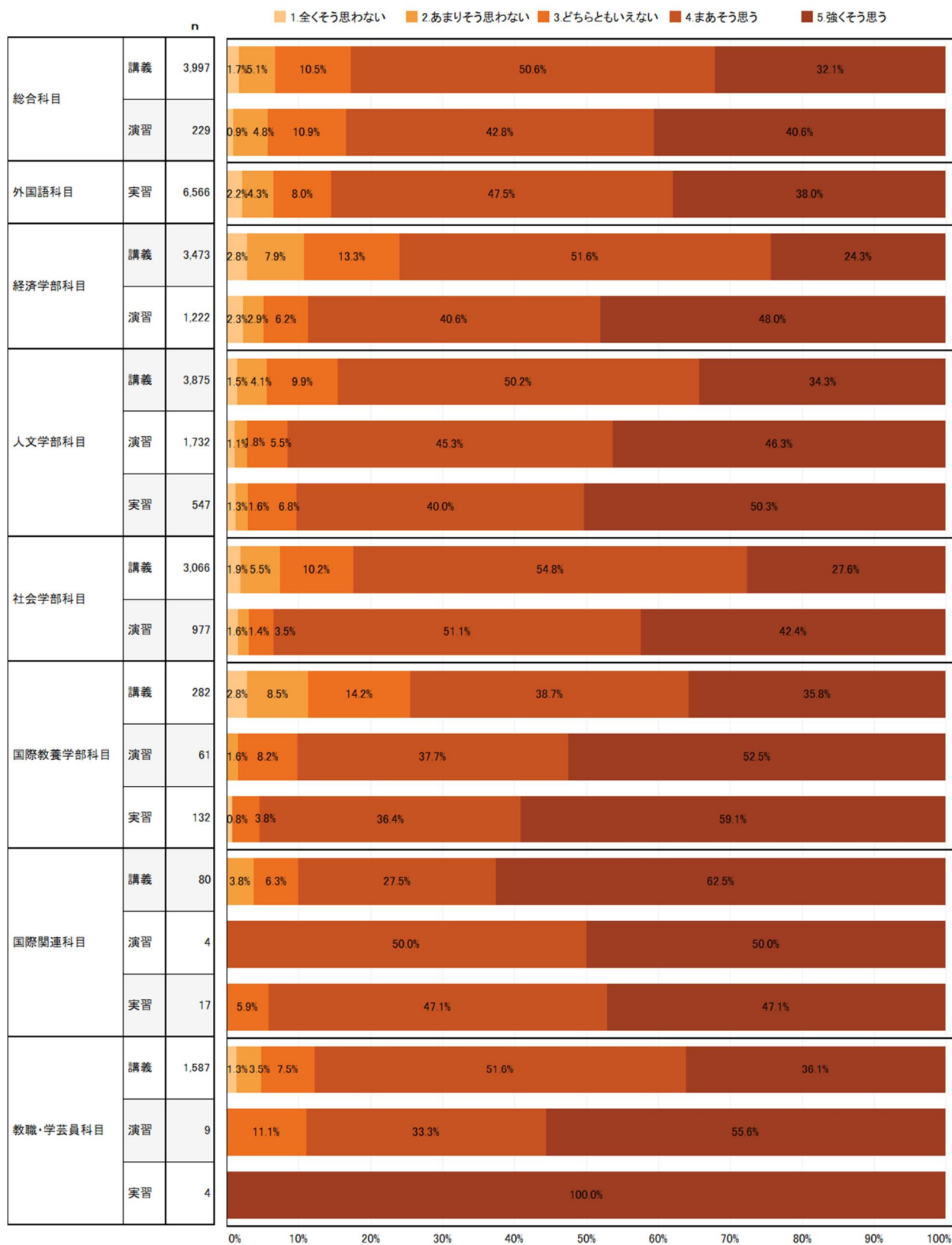


【Ⅱ】この授業の内容について、以下の項目にどの程度当てはまりますか？

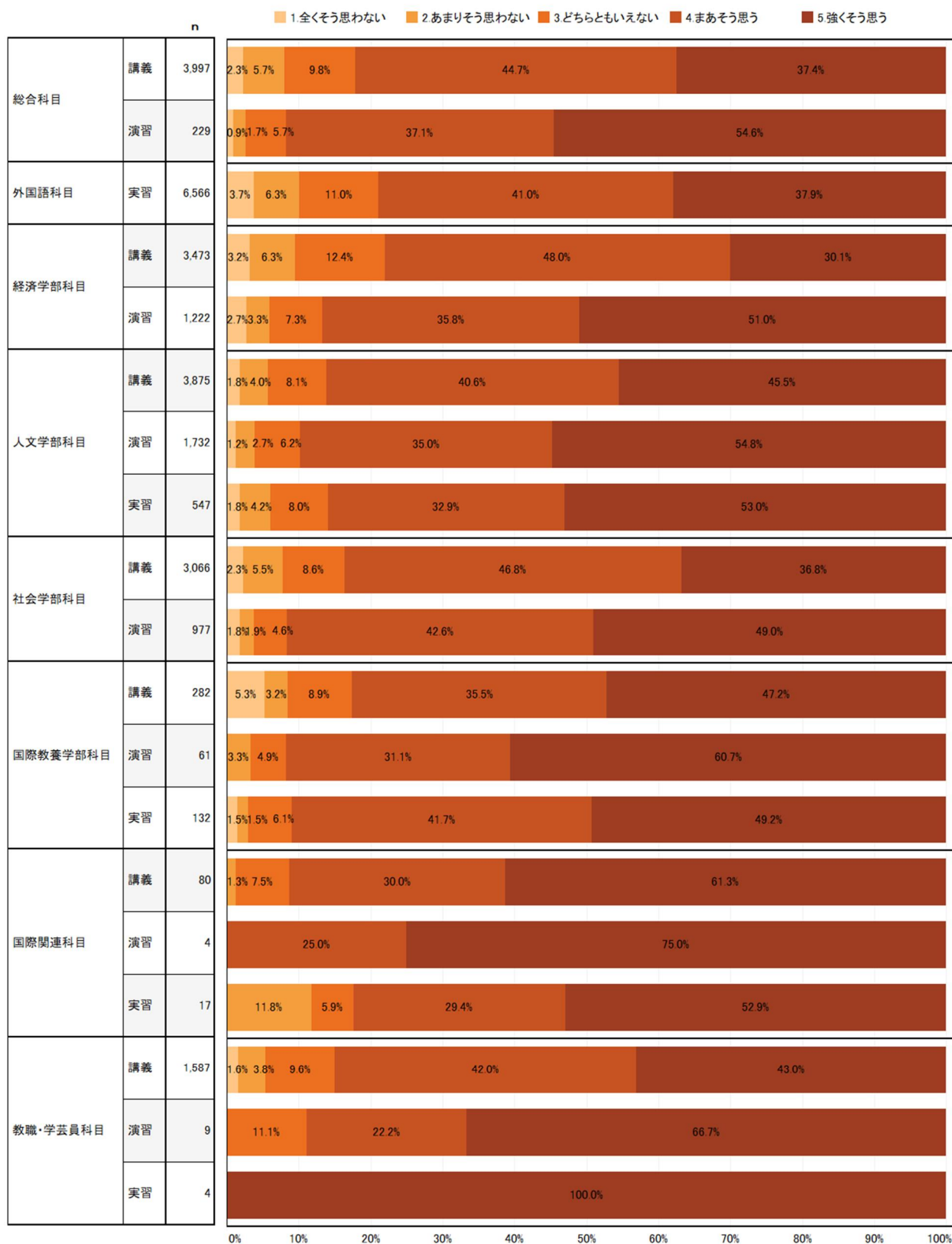
設問Ⅱ-1. 総合的にみて、この授業は満足できた



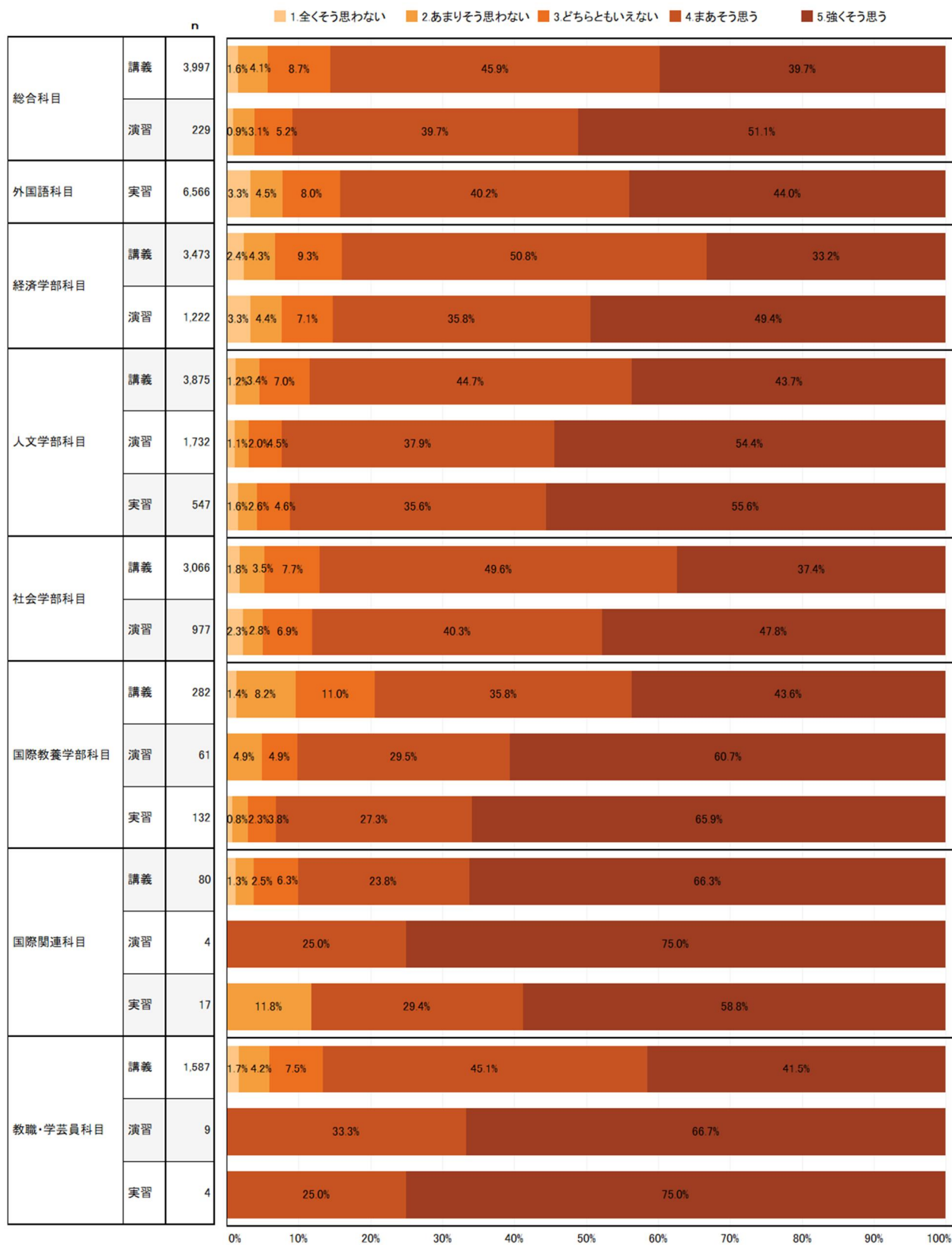
設問Ⅱ-2. 授業内容を理解できた



設問Ⅱ-3. 授業内容に興味が持てた

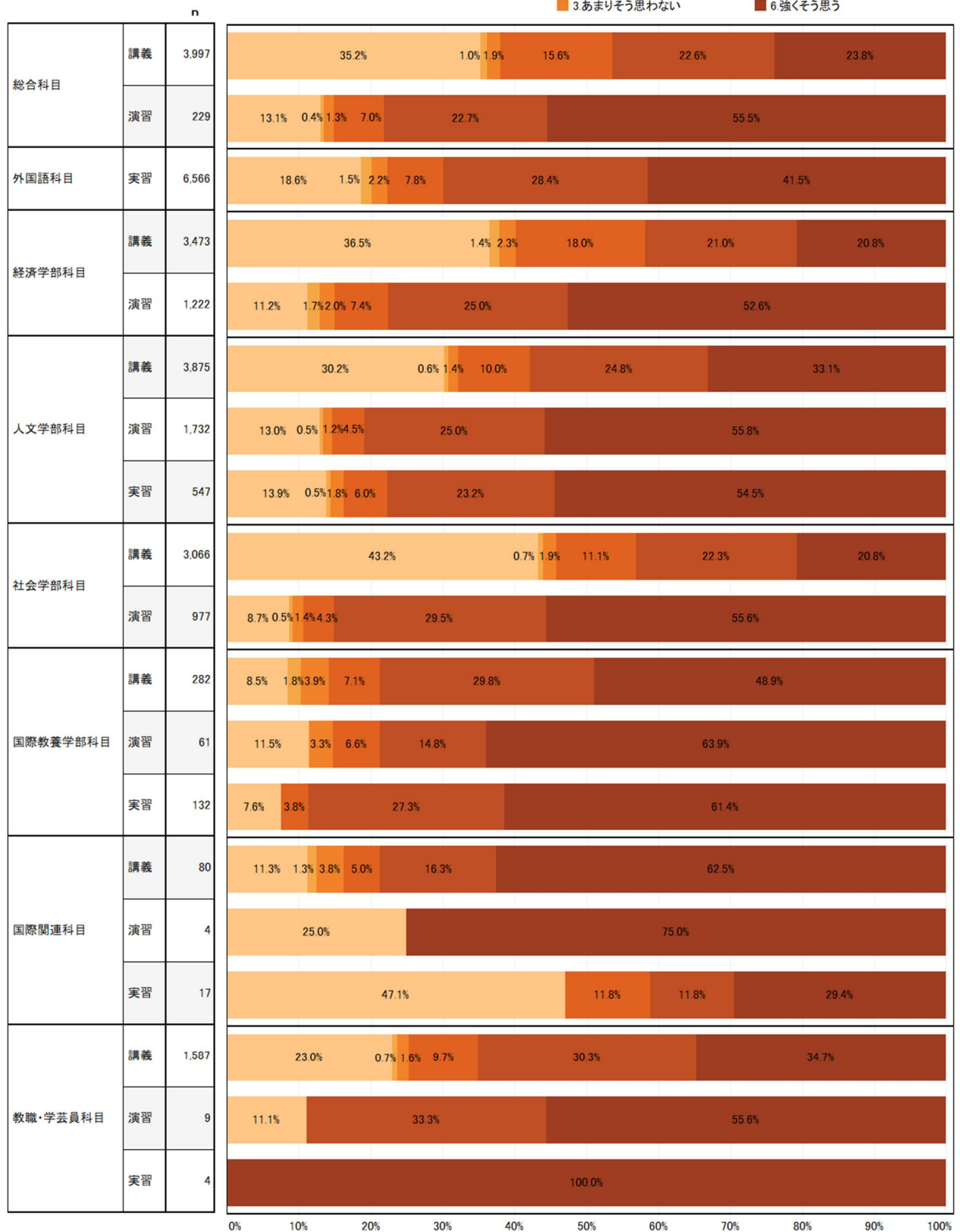


設問Ⅱ-4. 授業の進行速度は適切だった

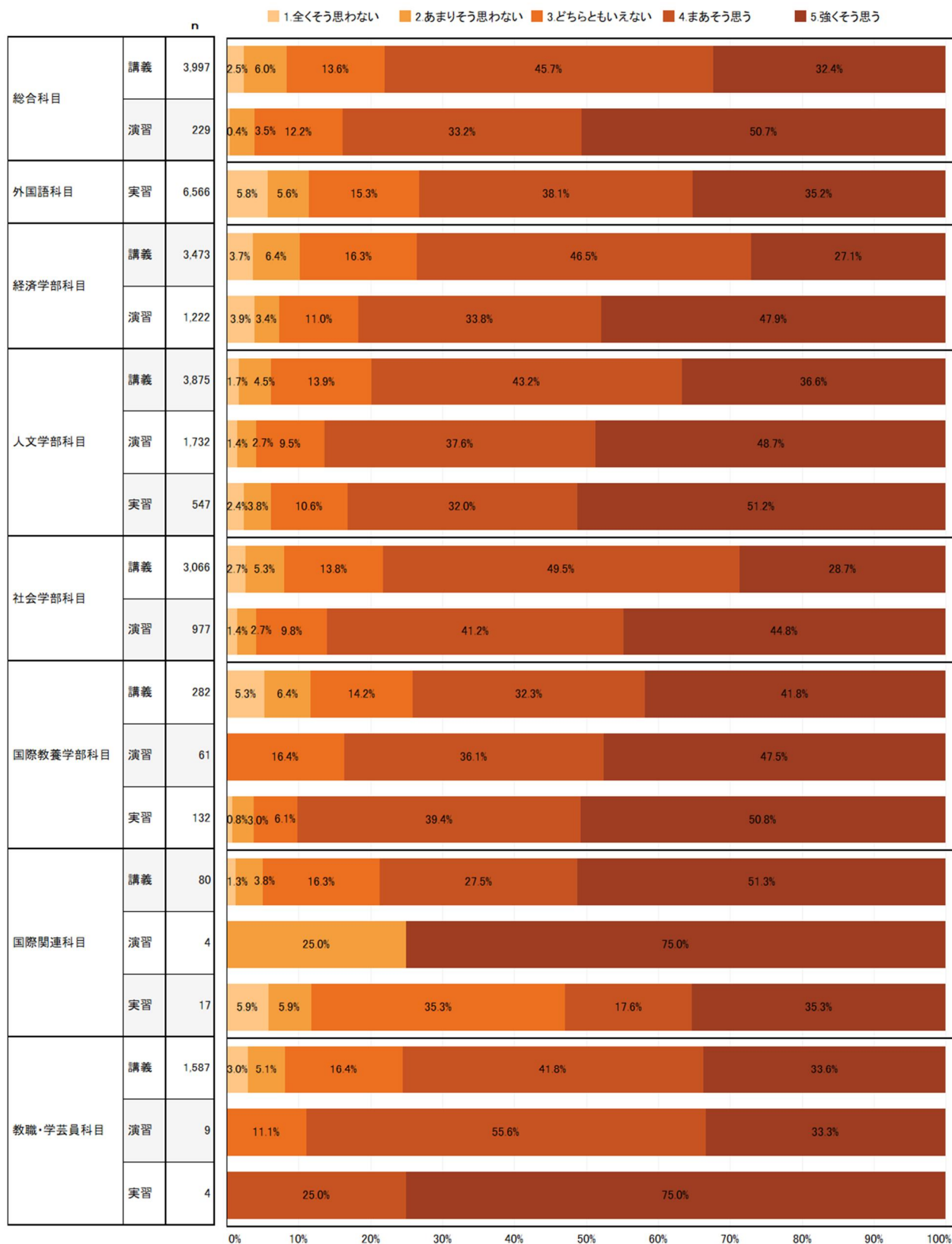


設問Ⅱ-5. 教員は質問や問い合わせに適切に対応してくれた

- 1 質問や問い合わせをしなかった
- 2 全くそう思わない
- 3 あまりそう思わない
- 4 どちらともいえない
- 5 まあそう思う
- 6 強くそう思う

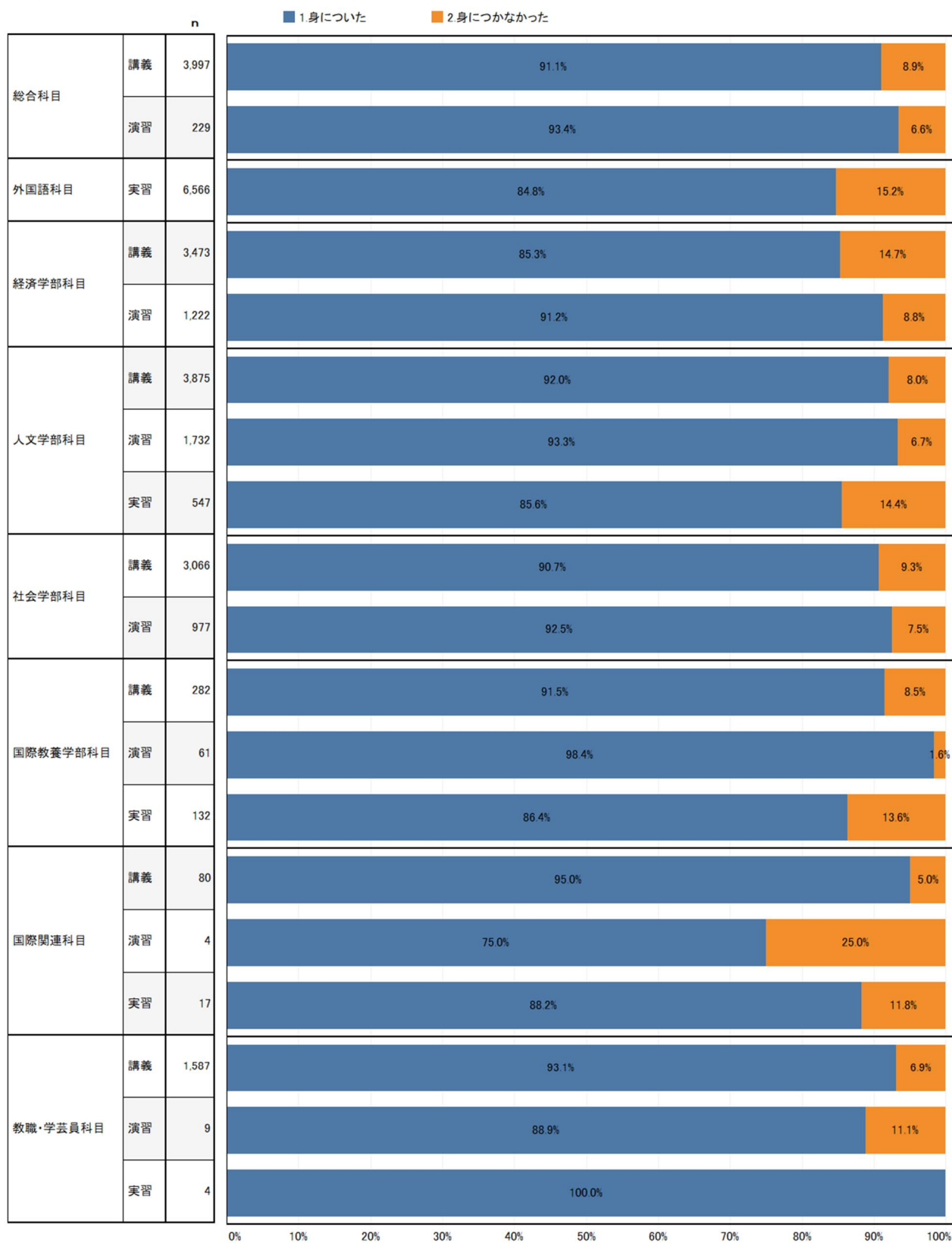


設問Ⅱ-6. この授業を特に優れた授業として他の学生に勧めたい

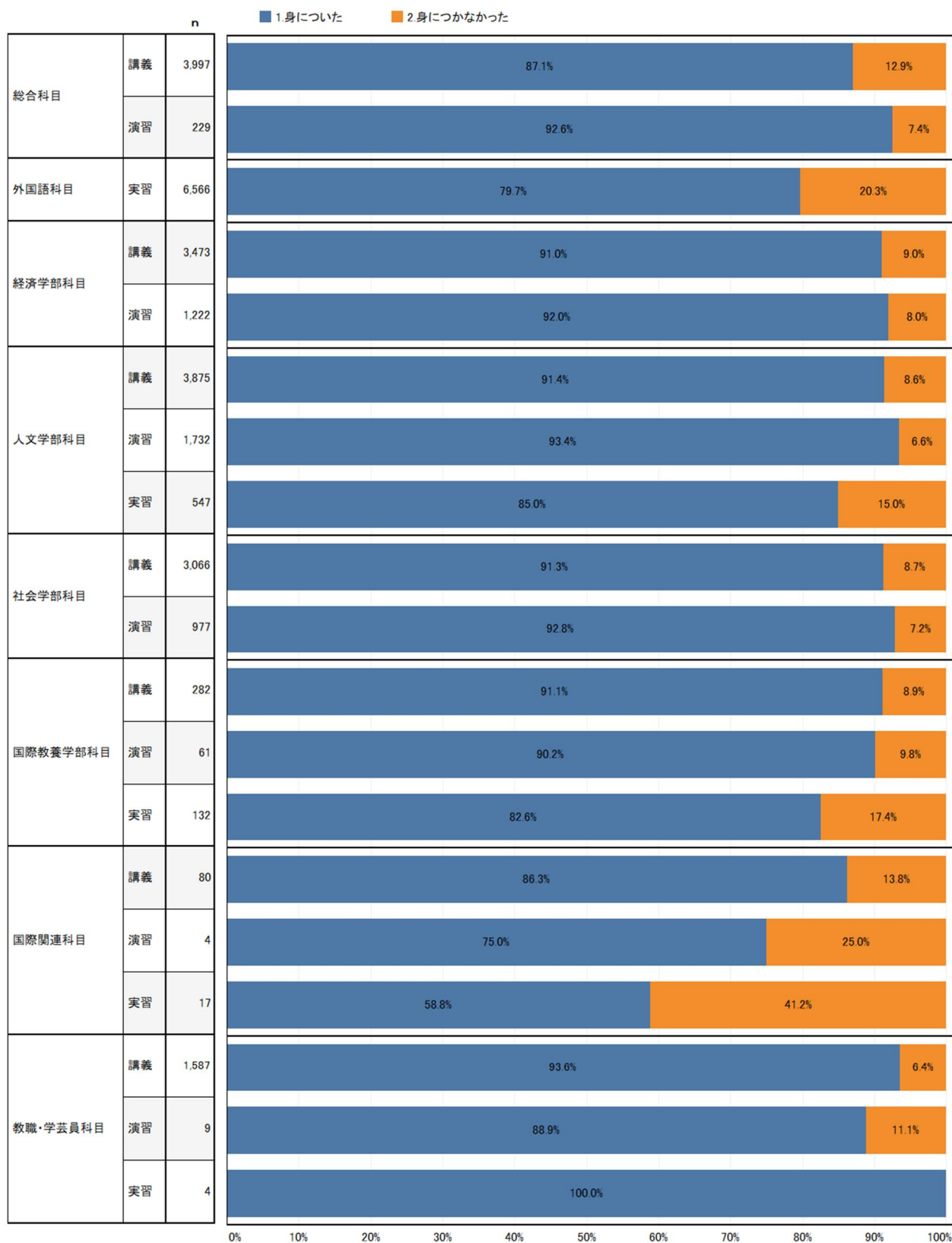


【Ⅲ】あなたはこの授業を受けることで、以下の知識・能力・態度が身につきましたか？

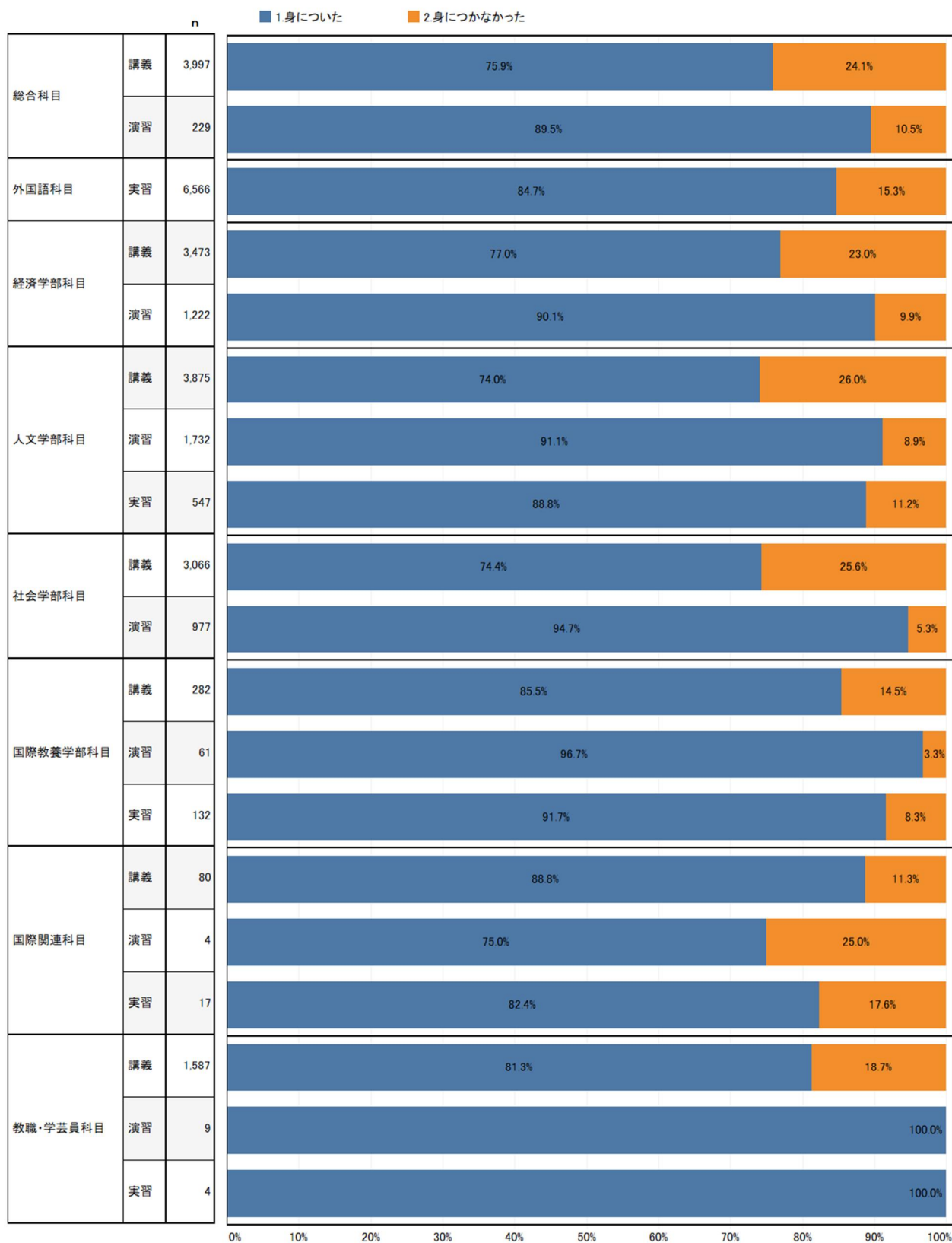
設問Ⅲ-1. 深い教養・幅広い知識



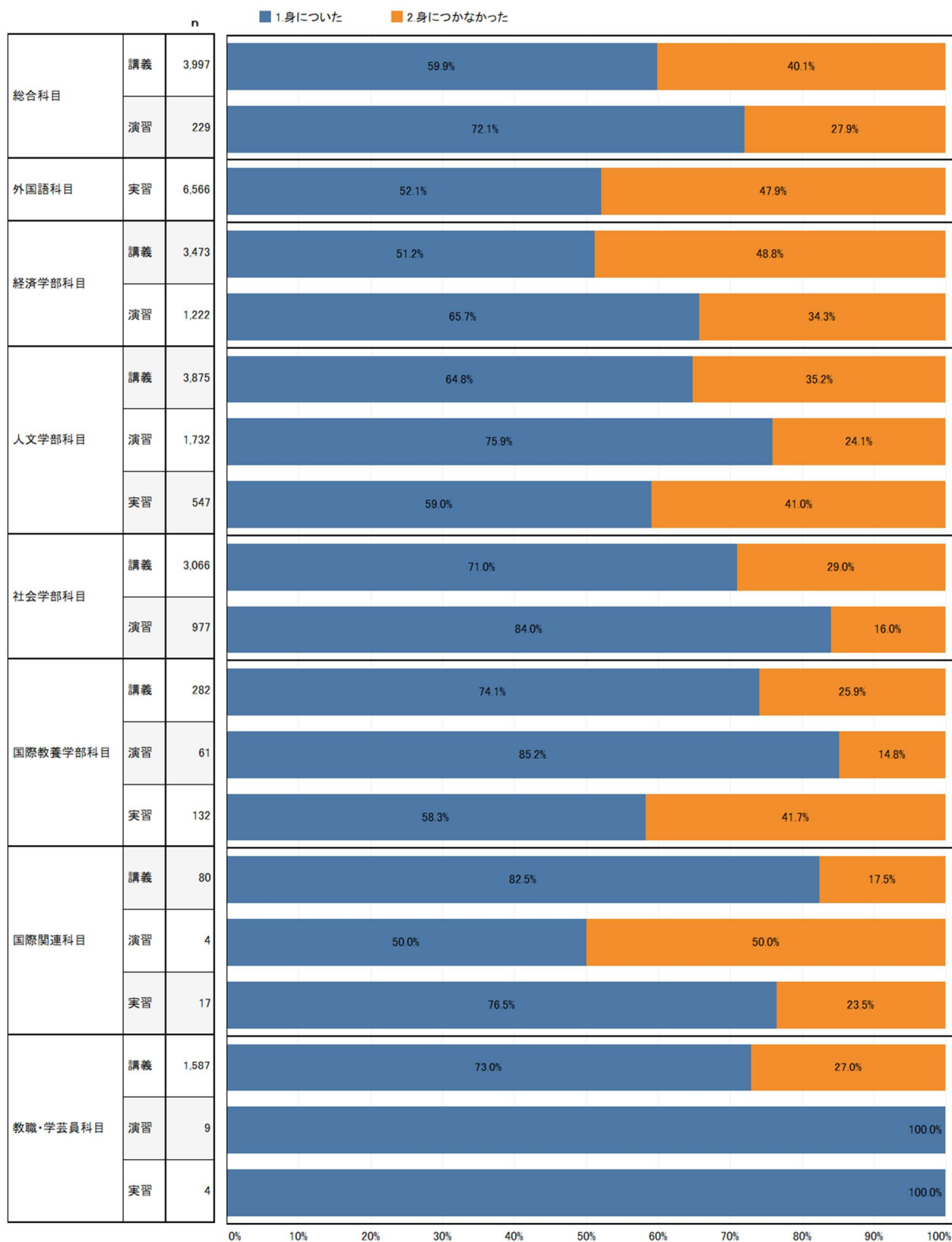
設問Ⅲ-2. 専門的知識



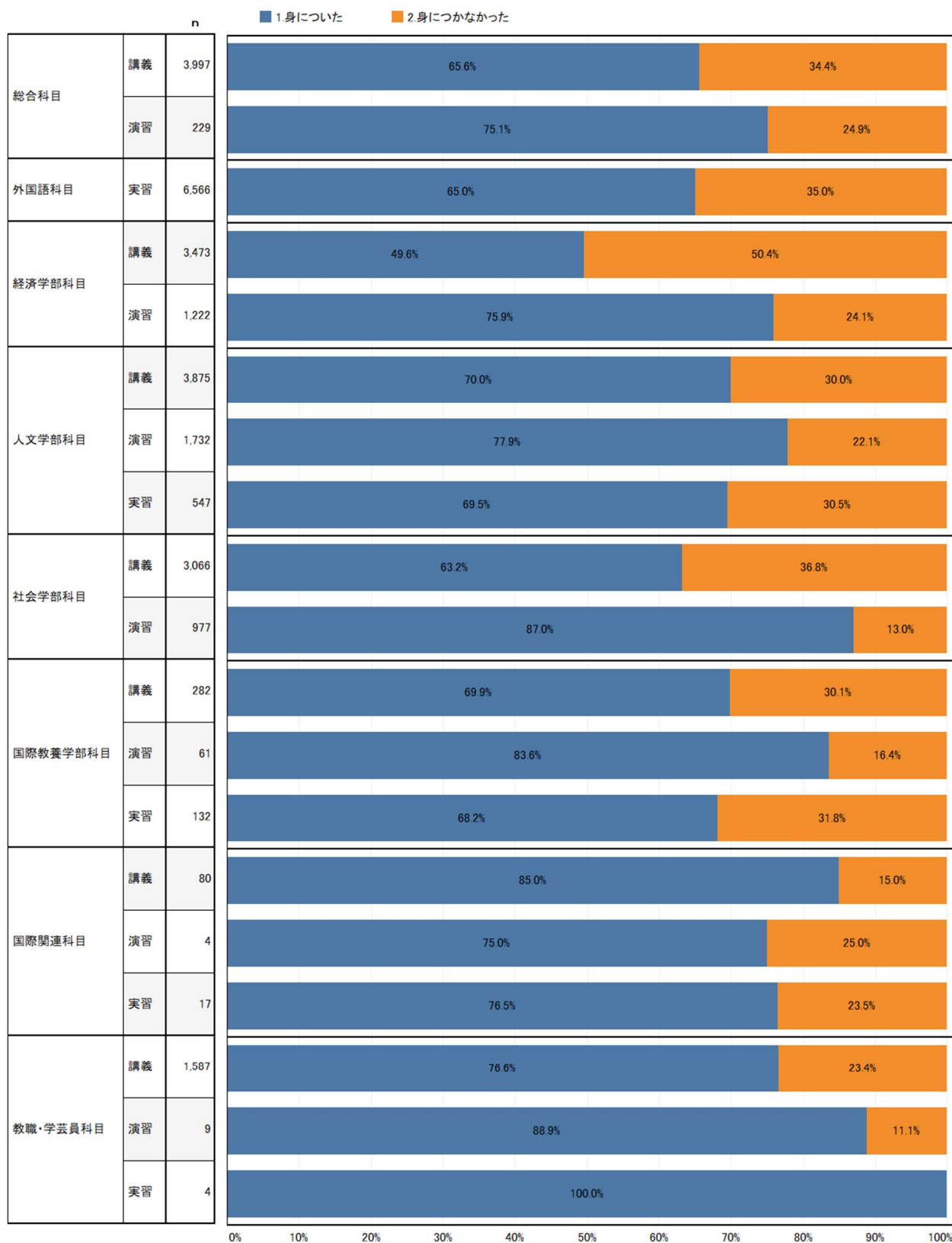
設問Ⅲ-3. 主体的な学習態度



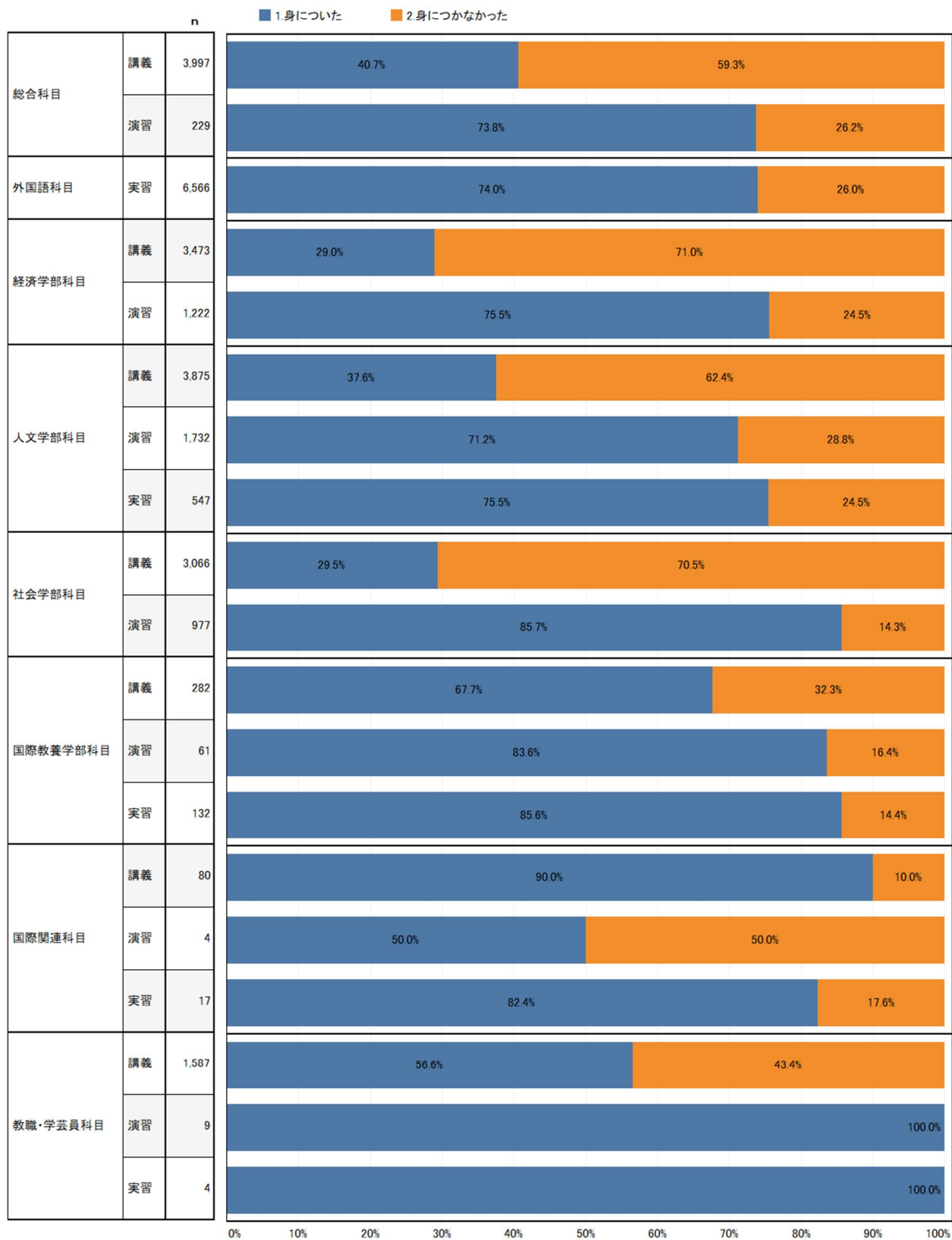
設問Ⅲ-4. 批判的な学習態度



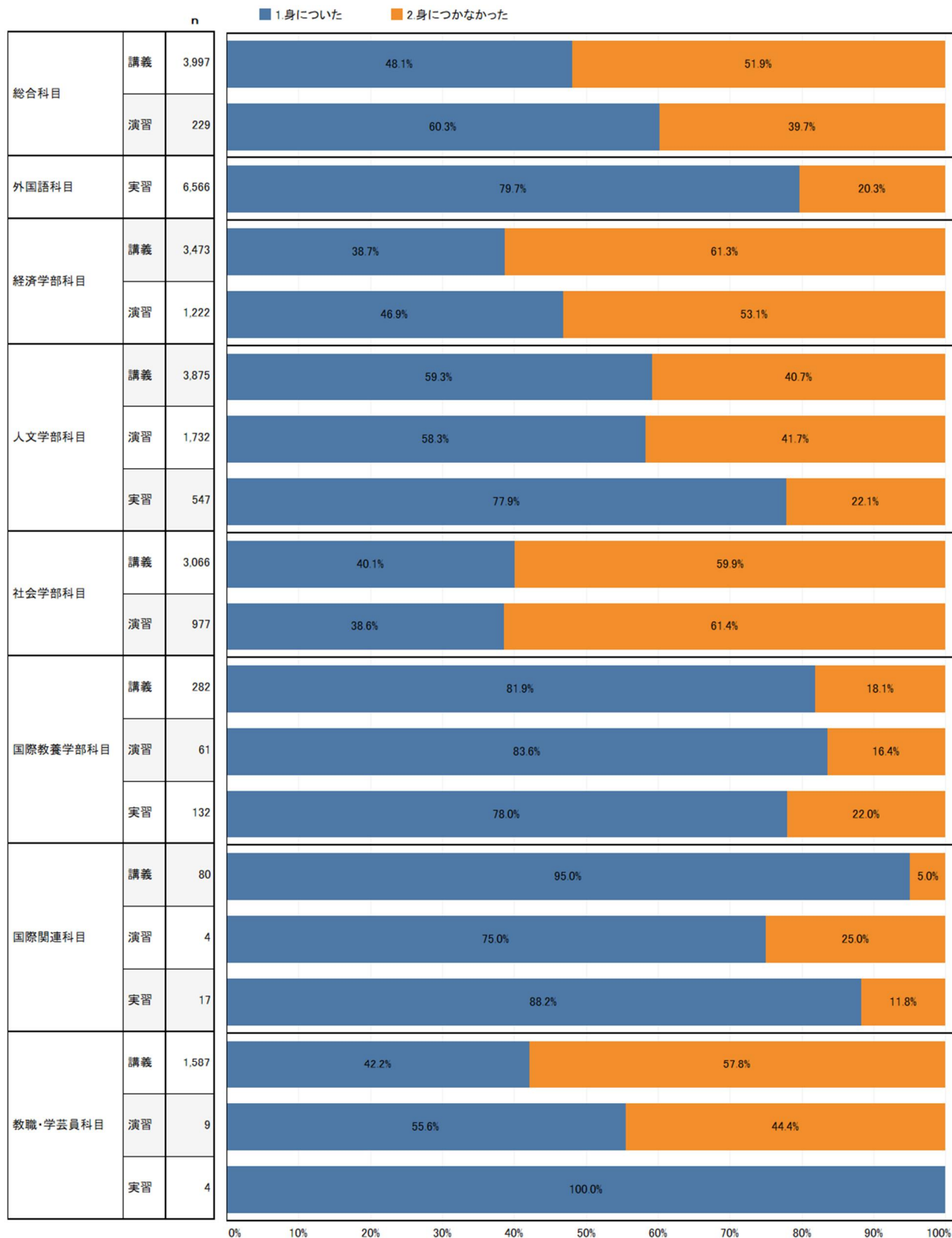
設問Ⅲ-5. 共感力



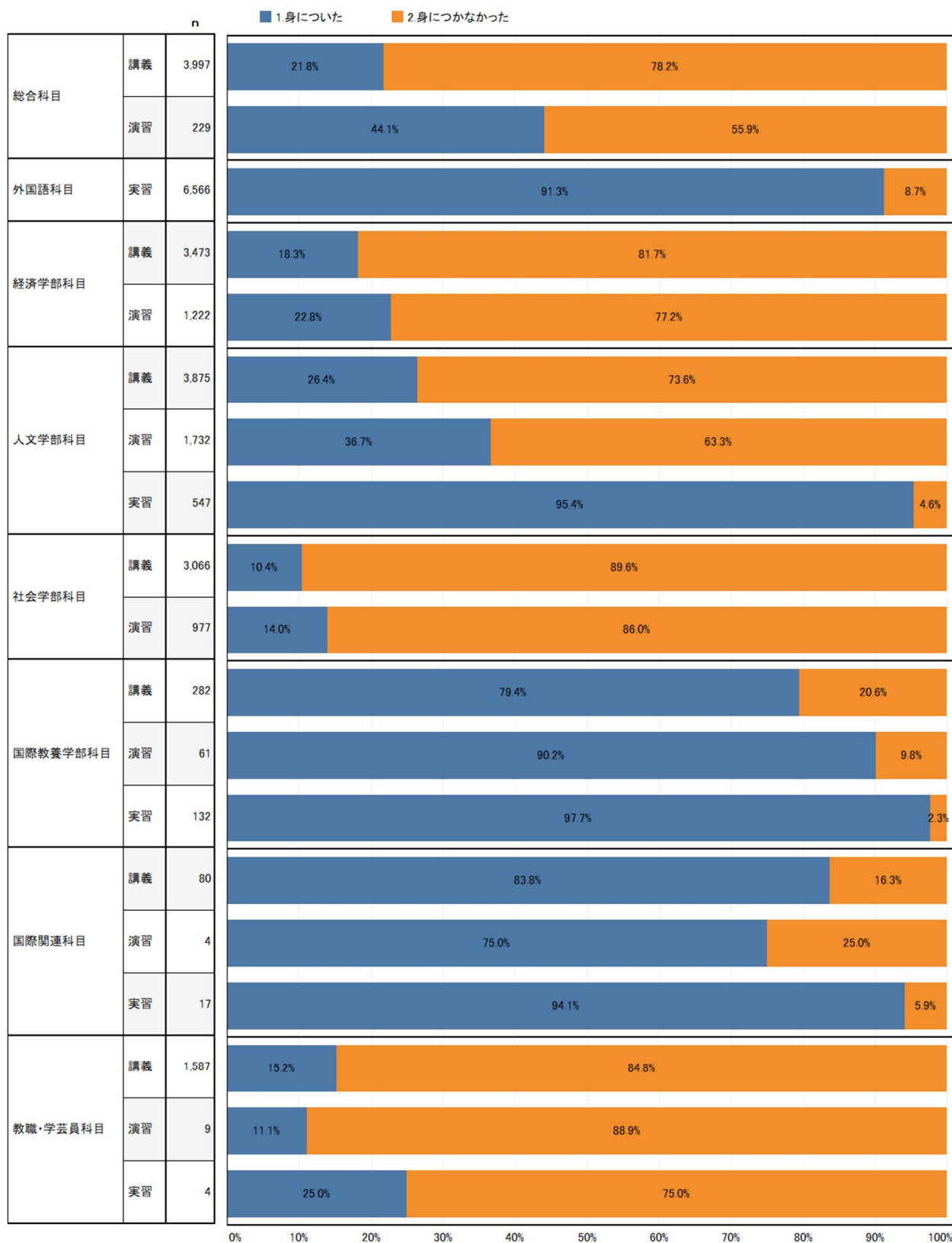
設問Ⅲ-6. 対話力



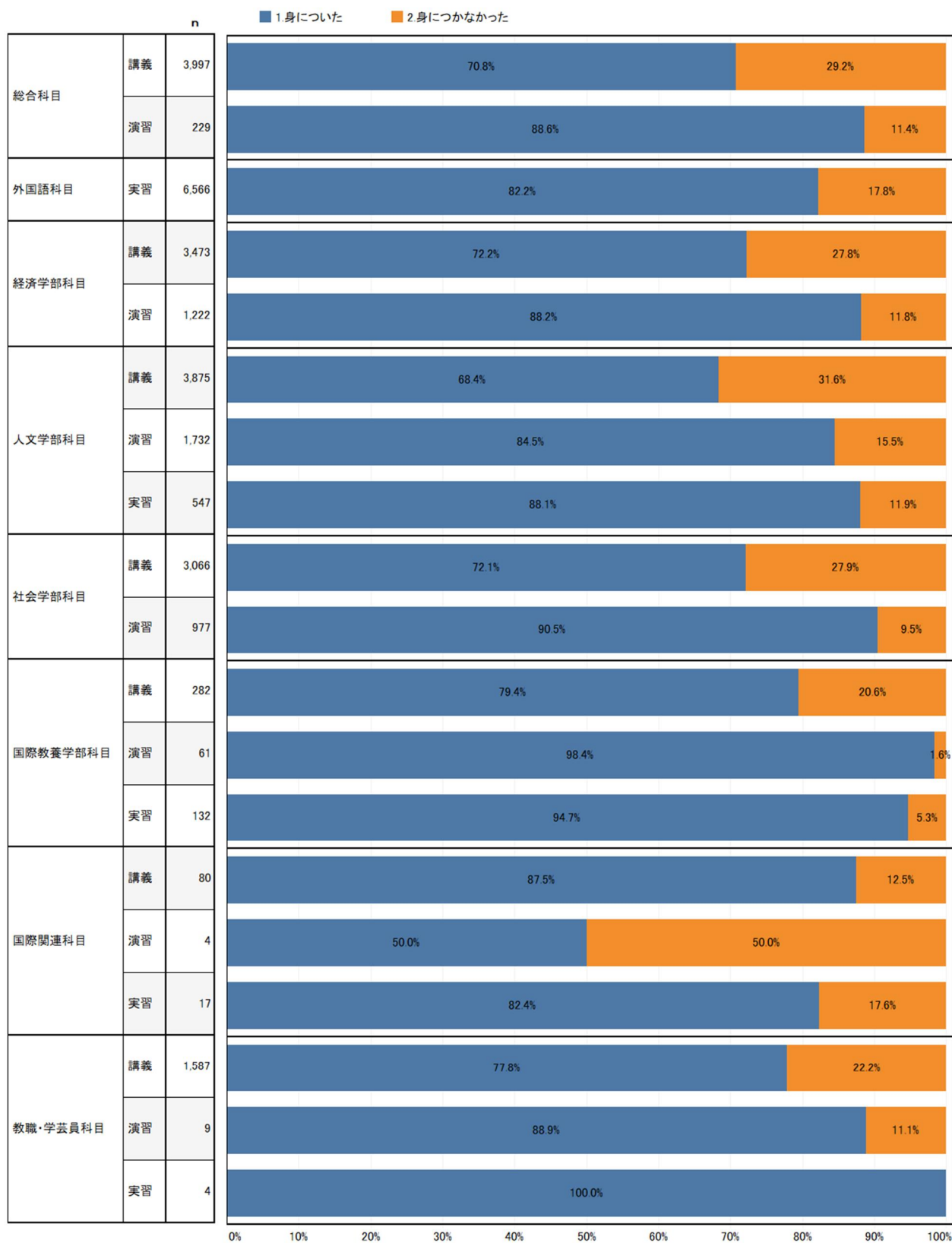
設問Ⅲ-7. グローバルな思考力



設問Ⅲ-8. 外国語運用能力



設問Ⅲ-9. 学びを活用する実践力



1-4. 学生が選ぶベストティーチャー賞

本年度、全学部で実施した「学生による授業評価アンケート」の結果をもとに、学生の授業満足度が高い教員を選出し顕彰を行った。

総合満足度

評価対象

1. 講義科目のみ
2. 講義科目のクラス規模別の回答率を算出し、平均回答率の 90%以上の回答率があった授業
3. 回答者数が 10 名以上の授業

顕彰方法

各授業の履修者数等に応じて、下記の 5 クラスに分けて集計する。クラス別に設問:「総合的にみて、この授業は満足できた」及び「この授業を特に優れた授業として他の学生に勧めたい」のトップボックス(強くそう思う)の構成比を 1:1 で換算し、最上位であった教員を顕彰する。

- ◆小規模クラス 1(10～29 名)
- ◆小規模クラス 2(30～59 名)
- ◆中規模クラス(60 名～99 名)
- ◆大規模クラス(100 名以上)
- ◆6 時限オンデマンドクラス

自調自考賞

評価対象

1. 演習科目のみ
2. 演習科目の回答率を算出し、平均回答率の 90%以上の回答率があった授業
3. 回答者数が 10 名以上の授業

顕彰方法

設問:「自ら調べ自ら考えることが楽しくなった」及び「総合的にみて、この授業は満足できた」のトップボックス(強くそう思う)の構成比を 1:1 で換算し、最上位であった教員を顕彰する。

2023 年度の「学生が選ぶベストティーチャー賞」受賞者は 26 名が選出され、受賞者には学長より賞状と副賞が授与された。

2015 年度までは、3クラス・計 12 名のベストティーチャーを選出していたが、このベストティーチャー賞の受賞を励みにしたいという教員が多いことや、本学の「少人数教育」のメリットを生かした授業を少しでも多く顕彰したいという思いから、2016 年度よりクラスを1つ追加した。2018 年度には、「ゼミの武蔵」を代表するような授業を顕彰したいと演習科目を対象に「自調自考賞」を設けた。さらに、2021 年度にオンデマンド授業が恒常的に導入されたことに伴い、「6限オンデマンドクラス」を追加し、5クラス・計 25 名を選出することになった。

今後も様々な基準を設けてそれぞれの分野で活躍されている教員を表彰したいと考えている。一方で、回答率が低いことで評価対象とならない授業が多い点が課題として挙げられるため、今後の検討課題としたい。

2023 年度「学生が選ぶベストティーチャー賞」受賞者

【総合満足度】

《小規模授業の部1(10～29名)》

※敬称略、五十音順

担当者	科目名
アリス・パッハー	Topics in Gender & Sexuality
大内 裕和	教育学特論A [1]
ジェフ・ワスティラ	英語 I [6] [A1e]
鈴木 暁子	金融各論(ファイナンシャルプランナー演習)
スティーブン・ブルックス	English I [SL・1] [GS-B-1]

《小規模授業の部2(30～59名)》

担当者	科目名
池田 岳大	社会統計学1 [2]
金井 達亮	教育相談の基礎 [1]
金 順玉	選択韓国・朝鮮語基礎1 [社・文法読本(1)]
鈴木 暁子	金融各論(ファイナンシャルプランナー講座)
リンジー・モリソン	日本文化史1/日本環境文化史1

《中規模授業の部(60～119名)》

担当者	科目名
宇田川 敦史	ゲーミフィケーション論
酒井 徹	生徒指導の理論と方法 [1]
田口 亜紀	観光文化論(ヨーロッパ)
原 朋弘	開発経済学1

《大規模授業の部(100名以上)》

担当者	科目名
大内 裕和	教職入門
鈴木 涼太郎	観光と社会/観光人類学
竹内 広宜	経営統計学
西村 敏也	比較生活文化論1

《6 時限オンデマンドクラス》

担当者	科目名
小川 俊明	金融論1 [特例・遠隔授業]
粉川 一郎	電子コミュニケーション論 [メディア授業][月6]
橋本 道雄	先進の科学技術 [1][特例・遠隔授業][月6]
氷見 直子	英語II/英語(選択)[R1][人文][メディア授業]

【自調自考賞】

担当者	科目名
笠原 一絵	学部横断型課題解決プロジェクト [2～4年生]
自見 まき子	日本語の教授法演習2
庄司 昌彦	卒業論文・卒業制作 [庄司][月4+月5]
鈴木 唯	専門セミナー第2部 [鈴木(唯)]